

## 佐渡島志郎・在バングラデシュ日本国特命全権大使の特別講演会を開催

博士課程教育リーディングプログラム「京都大学大学院思修館」は、一時帰国中の在バングラデシュ日本国特命全権大使の佐渡島志郎氏をお招きし、8月1日（木）に京都大学時計台記念館の国際交流ホールⅢにおいて「未来のグローバルリーダーに期待すること」と題する特別講演会を開催し、他のリーディングプログラムを含む教職員及び学生が約50人参加した。

講演で佐渡島大使からは、リーダーには、豊かな発想力、物事を見分ける力、グローバルなものを見方などを身につけてほしいこと及びそのための学修や研究を行う必要があることなどについて、ご自身のこれまでの経験に裏打ちされた内容のお話があった。

講演後の質疑応答では、バングラデシュの政治・経済状況や日本との関係、グローバル世界の中でのリーダーの立ち位置などの質問に丁寧に答えていただいた。

特別講演会終了後、思修館第一研修施設「廣志房」において、思修館プログラム履修生を対象に「佐渡島大使を囲む会」が開催された。

囲む会では、3名の履修生が8月9日からバングラデシュで国外サービスマーケティングを行うこととなっており、佐渡島大使から、バングラデシュの現状の説明と外交官の経験に基づいたリーダー論をざっくばらんに語っていただき、活発な質疑応答が行われた。最後に、履修生の壮行会では、学生がベンガル語での自己紹介と国外サービスマーケティングへの意気込みを披露し、佐渡島大使と出席の教職員に激励された。

